

家庭科学習指導案

6年3組 31名 指導者 永田佳子

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 洗濯の学習において「ジグソー学習」を取り入れることは、他者との関わりに必然性を生む協同的な「学び合い」の手立てとして有効であったか。

1 題材 暑い季節を快適に

2 目標

涼しい着方や住まい方に関心をもち、着方や住まい方の課題を解決しようとするとともに、日常着の手入れや洗濯の仕方が分かり、家庭での実践意欲をもつことができるようにする。

3 題材の評価規準

- 涼しい住まい方や着方、日常着の手入れに関心をもち、自分の課題に取り組もうとしている。
【家庭生活への関心・意欲・態度】
- 涼しい住まい方や気持ちよく着るための手入れの仕方を工夫している。
【生活を創意工夫する能力】
- 涼しい住まい方や手洗いを中心とした日常着の洗濯ができる。
【生活の技能】
- 涼しい住まい方や着方、気持ちよく着るための日常着の手入れの仕方を理解している。
【家庭生活についての知識・理解】

4 題材について

(1) 題材の価値

本題材は、学習指導要領の内容「C 快適な衣服と住まい」の(1)「衣服の着用と手入れ」のA「衣服の働きが分かり、衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること」、イ「日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること」、(2)「快適な住まい方」のイ「季節の変化に合わせた生活の仕方の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること。」を関連させて扱うものである。また、内容D「身近な消費生活と環境」の(2)「環境に配慮した生活の工夫」とも関連を図り、課題解決を図るようにした。ここでは、衣服の着用、快適な住まい方の学習を通して、身の回りの快適さへの関心を高め、その大切さに気付くとともに、衣服、住まいに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、衣生活や住生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。子どもたちは、これまでに第5学年「寒い季節を快適に」において、寒い季節を快適に過ごすための着方や住まい方の工夫について学習をしており、本題材は、その学習を振り返りながら対比的に取り扱うことができる。衣服は、人間にとってもっとも身近な環境であり、住まいはそれを外側から取り巻く環境である。このように、衣服と住まいは、相互に関連しながら人間を取り巻く環境をつくっている。そこで、第6学年でも、体により身近な着方から住まい方へ広げて考えさせ、身の回りの快適さについて生活状況に応じて工夫することができる子どもを育てていきたいと考える。この題材を通して、夏を涼しく過ごすための着方・住まい方に着目し、協同的な「学び合い」を行うことで、協力して課題を解決したり、家庭生活の営みのすばらしさに改めて気付き、これまでの家族の思いを感じ取り、着方・住まい方への関心を高めたりすることができるように考える。このことは、中学校での「C 衣生活・住生活と自立」の(1)「衣服の選択と手入れ」、(2)「住居の機能と住まい方」の学習へつながっていく。

(2) 子どもたちの実態と指導

本学級の子どもたちは、5年時のみそ汁作りのジグソー学習で、「だし」「実」「みそ」の課題別の比較実験に意欲的に取り組み、その後の一人実習（ペア学習）においても、さかんに教え合う姿が見られた。また、快適に過ごすための着方や住まい方については、第5学年で「寒い季節を快適に」の学習を行ったことで、家庭実践「季節や気温に合わせて衣服の調節をする。」の問いに関して「いつもしている」「時々している」と答えた子どもは8割以上であった。一方、「省エネルギーなど、環境を考えて生活する。」は6割、「自分の衣服などを手洗いで洗濯する。」は3割程度であり、環境への配慮や衣服の手入れや洗濯を意識して実践している子どもも少ないと言える。

そこで、衣食住を含めた視点から暑い季節の暮らしの工夫を見つめさせ、便利さを優先してしまう快適さへの意識を広げていきたい。また、洗濯の仕方の学習では、実践的・体験的な学習の中に、ジグソー学習を取り入れることで、必要感を伴った話合いや実感を伴った理解をさせたい。加えて、環境に配慮することの大切さや消費生活の視点も取り入れて、家庭で実践しようとする意欲につなげていきたいと考える。

5 指導計画（総時数 7 時間）

過程	主な学習活動	評価の観点				主な評価規準	時間
		関	創	技	知		
つかむ・見通す	家庭で 暑い季節を快適に過ごす工夫や課題について調べる。						
	1 暑い季節を快適に過ごすための住まい方や着方について考える。 暑い季節を快適に過ごすためには、どのような着方や住まい方をすればよいのだろうか。	○				○ 涼しい住まい方や着方に興味をもち、快適な過ごし方について考えようとしている。	1
調べる・確かめる	2 暑い季節を気持ちよく健康に過ごすための衣服の着方を考える。 ・ 比較実験 1 衣服の形（風通し） ・ 比較実験 2 布地の性質（吸水性）				○	○ 衣服の保健衛生上の働きが分かり、気温や季節の変化に応じた着方について理解している。	1
	3 衣服の汚れ方と手入れの仕方を調べる。 4 洗濯の仕方や汚れの落とし方を調べ、衣服の洗濯をする。 ジグソー学習 汚れた靴下を観察し、衣服を気持ちよく着るためにはどうすればよいかを考えたり、試し洗いをしたりして洗濯についての課題をつかむ。				○	○ 日常着の手入れの必要性を理解している。	1
	靴下をきれいに洗うための課題について課題班に分かれて追究する。	○				○ 洗濯に関心をもち、自分の課題に取り組もうとしている。	1
	調べた結果を学習班に戻って発表し合い、洗濯計画を立てる。		○			○ 環境に配慮した手洗い洗自分なりに工夫したりしている。	1 (本時)
	洗濯実習をする。【ペアで】			○		○ 手洗いを中心とした洗濯ができる。	1
	5 涼しい住まい方を調べる。 ・ 通風の仕方 ・ 暑さへの対処				○	○ 夏を快適に過ごすための暑さへの対処の仕方や通風の仕方について理解している。	1
生活に生かす	家庭で 家庭で実践をする。						
	6 涼しい着方や住まい方、衣服の手入れについて家庭で実践したことを報告する。（紙面）		○			○ 環境面からも生活を見直し、快適な住まい方や着方を工夫している。	

6 本時（5/7）

(1) 目標

手洗い洗濯の仕方が分かり、洗濯の実習計画を立てることができるようにする。

(2) 評価規準

環境に配慮した手洗い洗濯の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。

【生活を創意工夫する能力】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、前時の課題班に分かれて課題解決（比較実験等）に取り組んだことを想起させることで、靴下をきれいに洗うための課題について分かったことを友達へ伝えたいという意欲を喚起させる。

「調べる・確かめる」過程では、調べた結果を学習班に戻って発表し合う場面において、発表内容の「実験の方法」「分かったこと」「考えたこと」などの視点を明確にすることで、短時間に必要な情報を分かりやすく友達に伝えることができるようにする。また、洗濯の仕方については、「見える図」を用いてまとめることができるようにする。

「生活に生かす」過程では、振り返りを書く時間を設けることで、再構築した考えを明確化し、自分の成長に気付いたり、家庭実践への意欲を高めたりできるようにする。

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て	
つかむ・見通す	5	1 洗濯の手順を復習する。 2 本時の学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 靴下の汚れをきれいに落とすには、どうしたらよいのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 洗濯の手順を確認することで、基礎的・基本的な知識の定着を図るようにする。 ○ 前時の課題班（ジグソー学習）で追究した内容を想起させることで、友達へ伝えたいという意欲を喚起させる。
調べる・確かめる	32	3 調べた結果を学習班に戻って、発表し合う。【グループで】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 追究した課題のキーワード 「水温」 「洗剤の量」 「洗い方」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 洗剤は、多すぎても汚れ落ちは変わらなかったよ。逆に多いと、すすぎに時間がかかって、水も汚れるから環境にも良くないよ。 ・ 水温は、ぬるま湯の方が汚れ落ちがいいよ。だから、おふろの残り湯を使うと一石二鳥なんだ。 ・ 洗濯機に入れる前に、手洗いするといいよ。「つまみ洗い」や「もみ洗い」をするといいよ。 </div> 4 靴下の洗濯計画を立てる。【一人で】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 多面的にみる </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どんな実験をしたか」「どんなことが分かったか」「どんなことを考えたか」「どう生かしていけるのか」といった発表の視点を明確にすることで、聞き手に短時間で必要な情報を伝えることができるようにする。 ○ 前時に準備した図表やグラフ、実験に用いた用具や洗った靴下などの実物を活用することで、視覚的にも根拠を示して伝えることができるようにする。 ○ 友達の発表を聞いて分かったことをメモし、特に自分の洗濯に生かせそうなことに赤丸を付けることで、靴下洗いで生かせそうなことを再構築できるようにする。 ○ 「見える図（ポーン図）」を用いてまとめることで、上手な洗濯の仕方（洗濯の手順と工夫点）を多面的にとらえることができるようにする。 <p>※ 環境に配慮した手洗い洗濯の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしているか。（ワークシート）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動が進んでいる子どもには、その理由を考えるように助言する。 ○ 活動が停滞している子どもには、記入内容（洗い方など）を具体的に助言する。 </div>
生活に生かす	8	5 まとめたことを発表し合い、洗濯の仕方について確認する。【みんなで】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> （靴下の汚れをきれいに落とすには）、環境のことも考えて、洗剤は適量を使い、ぬるま湯で、道具を使ったり、つまみ洗いをしたりして、ためすぎをするとよい。 </div> 6 本時を振り返り、次時の学習への意欲をもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 靴下の洗濯の仕方が分かったよ。 ・ これから、洗濯機に入れる前には、ちょっと手洗いしよう。 ・ さっそく家で洗濯をしてみよう。 ・ 他の衣類の洗濯の仕方は、どうかな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 繰り返し、衣服の点検や干し方など洗濯の作業の流れを確認することで、基礎的・基本的な知識を身に付けることができるようにする。 ○ 「振り返り」を書く時間を設けることで、再構築した考えを明確化できるようにする。 ○ 次時に靴下を手洗いすることを伝えることで、家庭実践（予習）や次時への意欲を高めるようにする。